

< 運営推進会議における評価_様式例 > ※公表用

【事業所概要】

法人名	医療法人 同仁会	事業所名	阪井カルフル・ド・ルポ
所在地	(〒 642 - 0024) 海南市阪井 1770 番地 1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

看護小規模多機能の特徴として、その人の暮らしに合わせた臨機応変な対応を心掛ける
 利用者の心身がどのような状態であっても、その人らしい生活を維持できるよう支援している
 常に利用者が笑顔で過ごせる雰囲気づくりをする

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2022 年 2/7 ~ 2/14	従業者等自己評価 実施人数	(17) 人	※管理者を含む
----------------	----------------------	------------------	----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2022 年 5 月 26 日	出席人数 (合計)	(5) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (2 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (1 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (___ 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (1 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (___ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (1 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (___ 人) <input type="checkbox"/> その他 (___ 人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・業務のマニュアル化、利用者情報の更新など基盤整理を行う事で情報提供、共有がスムーズかつ確実に出来る環境にする ・就業時間内に業務が終了する体制づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護と看護のそれぞれの業務内容を見直し、また ICT を導入して情報の共有や記録の実施を時間内に行えるように取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・業務をマニュアル化して介護と看護のお互いの業務が分かりお互いが意識して協働できていると思われる。 ・記録に関して ICT を活用する事で残業時間の減少に繋がっている。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	<ul style="list-style-type: none"> ・参加可能な研修に積極的に参加しスキルアップを図る ・引き続き受け持ち担当が利用者の情報収集を行い、専門的な知識をつけ、看護職 介護職協働による一体的なサービス提供が出来るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に引き続き個人の研修目標を立案し研修を予定した。 ・医療的なケアは看護師が実施するが医療依存の高い利用者の場合のケアを介護・看護で一緒に行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年の個人研修目標の達成状況と今年度は自己の目標ならびに課題を提出している。 ・内部の研修はオンラインを含めほぼ全員が参加できている。 ・看護とケアスタッフで専門性を活かして利用者に対応できている。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が使われているサービスに関わる多職種の方と情報交換、共有、指導頂ける環境を作り生活へ取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診時にケアマネ以外に看護師や介護士も付き添う。 ・アセスメントやカンファレンス、申し送りでの情報共有を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・受診時、主治医に医療的な情報を伝える場合は看護師が付き添い、普段の生活の様子や報告等の場合には介護士も付き添えるようにしている。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き事業所の特性について知って頂けるよう地域向けのサービス説明や介護教室を開催するよう検討していく 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民向けにラジオ体操の場所を提供 ・地域の方、行政の方と情報共有し相談、企画に移行 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との週一回のラジオ体操は今後も継続していく。 ・地域のイベントの中止がまだまだ多く普段の生活に戻れていないのが現実。推進メンバーの方も当事業所とのイベントを考えてくれているが、自治会も高齢化していて難しいとの意見あり。

<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の目標や計画について理解し、維持向上に向けた実施、報告が出来るように利用者一人ひとりをより深く知り個別支援を行う ・職員全員が利用者、家族と関わりが出来るよう考える 	<p>説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネが目標設定し利用者、家族に ・スタッフと目標を共有し役割分担 ・宿泊サービスや有料老人ホーム入居者が看取りの時に希望があれば家族も泊れる体制をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて計画や目標についての会議は出来ていないが、うまく時間を使い開催していく。
---------------------------------	---	--	--

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・理念は簡潔化でき共有できているが、新人スタッフに浸透しきっていない。 ・個別育成計画と対応（均質化）できていない。 ・ICTなどの利用により速やかな情報共有ができています。 ・事業運営の定期的な見直し ・利用者・職員共に安心して過ごせる環境・体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・全スタッフが理念を理解して、その理念に沿って実践できるよう伝えていく。 ・引き続き個人目標を立案し育成計画を作成し職員が専門性をサービスが提供できるように整える。
<p>Ⅱ. サービス提供等の評価</p> <p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントに基づいた利用者の特性と目標を共有種々会議・申し送りなど行っている。 ・変化に対応できる情報連絡の整備と資質の向上 ICTの活用・研修と個別指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの入れ替わりがあっても、新人教育計画を整備し実施する。 ・内部研修・外部研修への積極的な参加と伝達講習により統一した質の高いサービス提供を行う。

	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・受診に介護士が同行 ・アセスメントやカンファレンスへの多種職参加 医師、看護師、ケアスタッフの情報共有 ・運営推進会議で地域・行政の方との情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な方の変化に早期に発見でき医療とのスムーズな情報共有のために介護職への医療教育を行う。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方、行政の方と情報共有し相談、企画に移行 コロナ状況に応じ地域の行事に参加 ラヴィ発信の企画発案 ・地域の医療ニーズ (訪問・看取り) に対応する 	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を見て、地域と関われる機会を持つ ・地域の方に健康や介護についての勉強会を検討
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の目標や計画について理解し、維持向上に向けた実施、報告が出来るように一人ひとりより深く知り向き合う ・職員全員が利用者、家族と関わりが出来るよう考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者および家族の望む暮らしが続けられているか、常に考えながら関わっていく。

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよ そ でき て い る	あまり で き て い な い	全く で き て い な い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケア		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」
		[具体的な状況・取組内容] ・説明内容を見直し簡潔にしたため理念が浸透した					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	への貢献」を含む、独自の理念等を掲げている						✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している			○		昨年より評価が下がっている。→新人スタッフには浸透できていなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・理解はできているが、全般的に実践できるまでには至っていない					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している			○		何故？→人員の入れ替わりが多かったため	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・個人目標を立案し、目標に沿った研修の組み立ては行っているが、人員の入れ替わりがあり、育成計画作成までには至っていない					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している	○				前回より上がっている。 オンライン研修の実施等工夫を凝らして現状に対応しておりとても良い取り組みだと思う。	✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] <u>・本年度コロナウイルスにより対面での研修中止が多く、来年度に再度参加の機会を設ける予定</u> <u>・内部研修は多くの職員が参加できており、外部研修はオンライン研修で必要に応じて行えている</u>					
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	○					✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] <u>・申し送り、カンファレンスを行い情報共有が出来ており、改善会議でも情報を共有している</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている		○			上がっている。 令和2年度から会議での報告を実施していますがどの様な改善が感じられるか？ →改善会議で運営推進会議の報告をしている。	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <u>・月1回の改善会議などで報告はしており、少しずつ浸透するように方法を検討</u>					
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている			○		「できている」でよいのではないか	✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <u>・人員不足の為、時間外での勤務で負担もあったが、業務体制維持できているも職員の入れ替わりがあり、精神的な負担の軽減には至っていない</u> <u>・ストレスチェックや理事長による定期的な腰痛検査、定期健診などあり働く環境は良い</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	○				全体的に情報共有等改善傾向です。 ICTの活用が積極的でとてもうまくいっていると思われます。	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・申し送り等がICT活用により職員に共有できている					
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている		○			スタッフ皆さんが意識を持ってヒヤリハットの報告をされているのが日ごろの運営推進会議でも伝わってきます。是非、この調子で続けていただきたいです。	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます
		[具体的な状況・取組内容] ・リスク会議でヒヤリハットや事故などの報告で話し合い予防や対策になっている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・委員を中心に災害時のマニュアル更新や定期的に訓練を行っている ・BCP（業務継続計画）も作成を進めており、緊急時に対応できるよう構築中である 					
Ⅱ サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセ		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <ul style="list-style-type: none"> ・日中、夜間共に申し送りにて情報共有し 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
	スメントが行われている	<u>アセスメントが行われており、ICT 活用により周知ができるようになっている</u> ・ <u>本年度も家族との関りが難しかった為、来年度の課題である</u>					規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている		○				<p>✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>・状況変化があればすぐに報告、情報共有し適宜計画を変更し反映されている</u></p>					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している			○			<p>✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です</p>
		<p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>・訪問は定期的に行い、利用が偏らないように調整しているが、家族からの要望もあり利用の偏りが一部みられる</u></p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
④ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有							
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・主治医には適宜報告しているが、PT等との関りが少ない為、生活に活かせる情報の共有や目標に向けた取り組みが必要</p>					
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・専門性を活かし医療ケアは看護師、介護ケアは介護士が行っており、介護職のケアも看護師からの目線で助言や介入ができています</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
20	○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている		○				✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <u>・申し送り、ICT 活用、改善会議等にて情報共有し連携をとれている</u>					
③ 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○				✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <u>・朝夕の申し送り、ケース会議、研修などを通じて感染予防や実践訓練など行っている</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(4)利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている			○			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>・スタッフの入れ替わりが多かったため、以前と比較し説明が不足している</u>					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>計画については利用者、家族に説明を行い理解いただけるよう努めている</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・看護師が確認し説明を行っている					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○				✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ・リビングウィルの作成を家族、本人に依頼しサービスに反映させる努力をしている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている			○		下がっている 去年、職員は相談・共有する機会がなかったのでおおむね出来ている状況は悪くなったのか？ →現場の動きが大変でケア会議もやっているが不足を感じる	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <u>・管理者、ケアマネジャーが聞き取りを行っており、問題に対しての方針、共有はできているが想定の課題についてはあまりできていない</u>					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> <u>・家族や本人の意向をリビングウィルに記録として残しているが全員に対してはできていない</u>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p><u>・急変時、夜間や休日であっても連携している主治医と連絡がとれる体制を構築している</u></p>					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p><u>・昨日 11 月から地域の方のラジオ体操をサポートしているが、利用者のためにインフォーマルサービスを利用するまでには至っていない</u></p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ 掲示板に掲示すると同時に改善会議で報告している					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ ラジオ体操に集まった人に事業所の説明をしている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おおよそ でき て い る	あまり でき て い な い	全く でき て い な い		
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている				○	日中できるのであれば「全く できていない」でないのでは	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・夜間、看護師不在の為現在受け入れてい ない					
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れること ができる体制が整っており、 積極的に受け入れている	○					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くでき ていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・積極的に受け入れができている					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などがない場合は、「全くできていない」
② サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・ラジオ体操に来てくださる行政や地域の方と課題の共有・相談をしている					
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている				○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えてい
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・今後企画予定					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
							くなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない 場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている ③. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない <u>[具体的な状況・取組内容]</u> <u>・高齢化してきており状態が不安定な方や悪化している方がおり、達成できない方が多い</u>		✓ 「計画目標の達成」について、評価します

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
②	在宅での療養生活の継続に対する安心感			
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・高齢化により ADL が徐々に低下しているが本人・家族は安心感が得られている</p>		<p>✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します</p>
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>①. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>[具体的な状況・取組内容]</u> ・自宅で見取りに不安がある場合は、宿泊サービスで対応し家族も一緒に泊まることのできる体制を作っている</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>